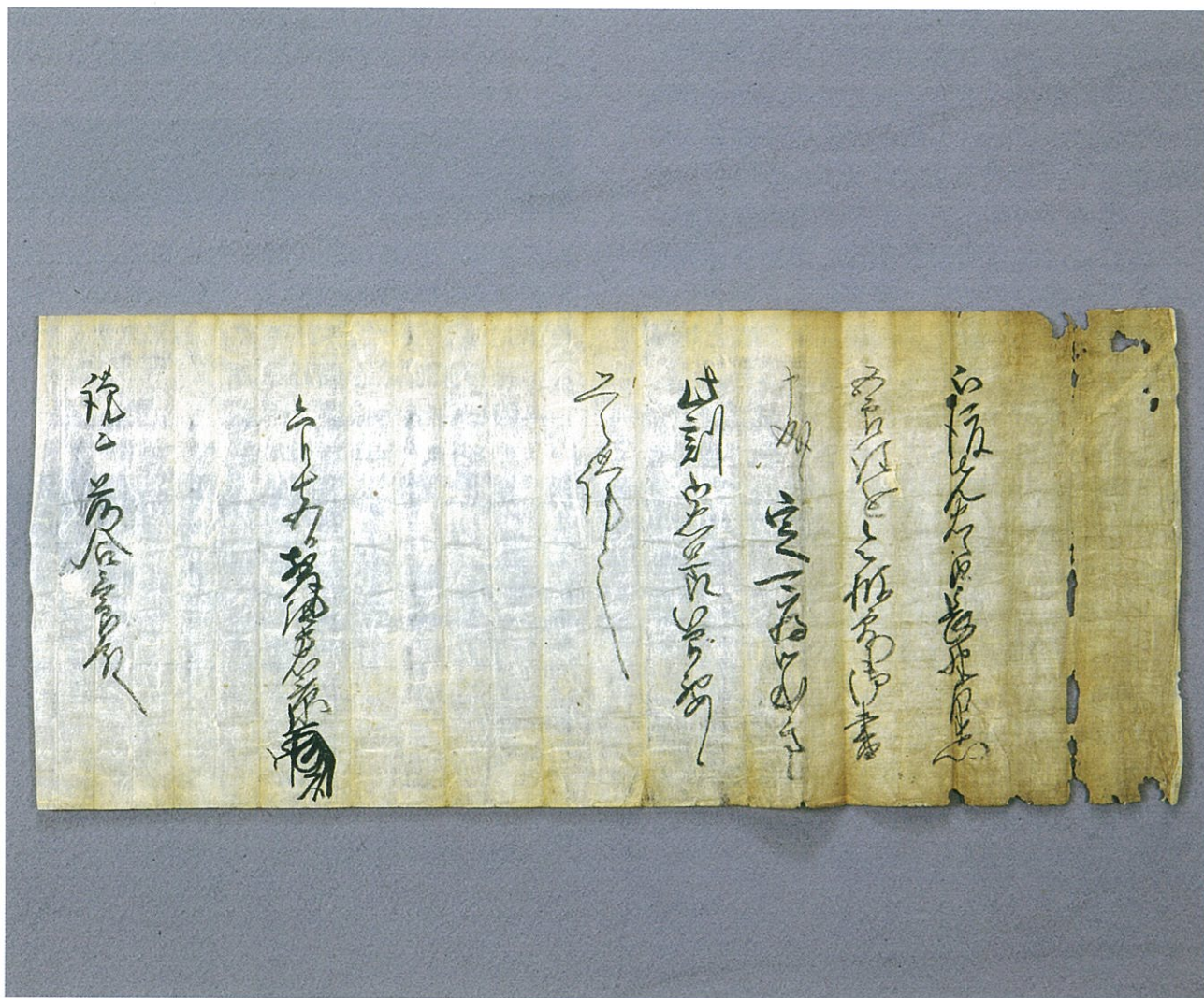


## 長尾忠景書状



長尾忠景書状

博物館で今年度に新たに購入した史料です。この文書の発給者（差出人）は、群馬県前橋市総社町あたりを拠点にしていたと考えられる総社長尾忠景という人物です。忠景は文亀元年（1501）に死去しているので、本文書の年次は15世紀後半であると考えられ

ます。同時期は戦国時代のはじまりに当たり、皆さんもご存知の武田信玄や上杉謙信の父親の世代が活躍し始めていました。忠景の主君である山内上杉氏と信州との意外に深い関係も含めて、ここでは本文書の紹介をいたします。



## 室町時代の信濃国と西上野

戦国時代についてみていく前に、それ以前の東国の室町時代について簡単に確認しておきましょう。室町期の東国には、鎌倉を首府とした鎌倉府と呼ばれる統治機構が存在しました。鎌倉府は関八州の他に伊豆国や甲斐国も含む広大な地域を管轄していて、そのためにかなりの程度、専制的な統治が行われていました。鎌倉府の首長は鎌倉公方と呼ばれ、京都の室町幕府将軍の一族である足利氏が同職を世襲しました。したがって、鎌倉公方は幕府将軍の「連枝（貴人の兄弟姉妹）」にあたり、両者は「両公方」「都鄙の両公方」とも称され、統治序列の最上位に位置する貴種の身分でもありました。鎌倉公方を補佐したのが関東管領で、14世紀後半からは上杉氏が同職を独占してつとめていきました。

上杉氏は上野・武蔵・相模・伊豆・越後・上総などの守護となって、同地を権力基盤としました。また、同氏は数多くの家に分立し、その中で嫡流の系統となっていた山内家が15世紀初頭には関東管領職を独占し、家職としていきました。

ところで、都鄙の両公方には管轄地域を統治するための強力な権限が付与され、いずれも貴種の身分であったことから、次第に両者は対立していきました。都鄙の両公方の対立が室町期東国における政治史の基調であり、その対立した両者の支配管轄の境界に位置したのが信濃国でした。

そのため、室町期の信濃国の政治は比較的不安定で、おおむね室町幕府の管轄に属しながらも、東信地域に関しては鎌倉府の影響力が強かったようです。その際に隣接する上野国（群馬県）の守護が山内上杉氏であったこともあり、山内上杉氏の家臣には東信を本貫地（本籍地）とする氏族が多く存在しました。例えば、更科郡力石（長野県千曲市）を本貫地にして右筆（文筆官僚）として活躍した力石氏、佐久郡大石郷（長野県佐久穂町）を本貫地として武蔵・上野・伊豆の守護代をつとめた大石氏、あるいは常陸国で山内上杉氏の家臣として活躍した臼田氏や土岐原氏も本貫

地は東信地域と考えられています。

さて、山内上杉氏の守護分国である上野国について話を移すと、同氏が拠点としたのは板鼻（安中市）や平井（藤岡市）でありました。そのため同氏の家臣が多く、権力基盤ともなったのは、利根川よりも西側の西上野（群馬県西部）でした。本史料の受給者（受取人）である落合氏の本貫地も西上野でして、ここに山内上杉氏の家臣というカテゴリーを介して、落合氏を含む西上野と東信地域との深いつながりを確認することができます。

## 長尾忠景書状の内容

文書の内容を詳しく記すと、次のようになります。

被復先忠之由長野左衛門  
五郎注進令披露、御書  
申成候、定可為御本意候、  
此刻御忠節簡要候、  
恐々謹言、  
六月十五日 前尾張守忠景（花押）  
謹上 落合三郎殿

これを読み下し文にすると、次のようになります。

先忠に復さるるの由、長野左衛門  
五郎注進を披露せしめ、御書を  
申し成し候、定めて御本意たるべく候  
この刻、御忠節簡要に候、  
恐々謹言、  
六月十五日 前尾張守忠景（花押）  
謹上 落合三郎殿

発給者の長尾忠景は上野国（群馬県）の守護で関東管領であった山内上杉氏のもとで、筆頭家臣である家宰をつとめました。宛所（宛先）の落合三郎は、同じく群馬県の藤岡市上落合を本貫地とした氏族と考えられます。

本文書の内容を口語訳すると、次のようになります。

すなわち、落合氏が長野氏の配下に属して



再び山内上杉方になったということを、長野氏が長尾忠景に報告してきました。そのことを忠景は主君である関東管領の山内上杉<sup>あきさだ</sup>顕定に申し上げ、顕定からの手紙（御書）を授かりました。このことは落合氏にとってきっと望み通りのことであろうから、しっかりと忠節に励んで下さい、と忠景が落合氏に送ったものです。したがって、もともとは顕定からの手紙（御書）とセットで、本文書は落合氏の手元に送られ、その内の一通として伝世されたと考えられます。

文中の長野氏は、やはり西上野の箕輪城（高崎市）を本拠地としていた領主です。後の16世紀半ばに、甲斐の武田信玄が信濃から西上野に勢力を伸展させる際に抵抗した氏族として、長野氏は知られています。該当箇所から、同氏は既に15世紀後半の段階で、落合氏を束ねるような存在であったことが知られます。

## ま と め

以上、長尾忠景書状について簡単に説明してきました。本文書は初出の史料であり、受給者である落合氏については、その存在が初めて明らかになりました。その落合氏の動向を家宰の長尾忠景へ報告した長野氏の新たな動向についても、本文書によってうかがうことができるようになりました。

これら落合・長野・長尾ら各氏を統治していた序列の最上位に位置していたのが、当該期には関東管領の山内上杉氏でした。その山内上杉氏の権力基盤として西上野～東信地域が重要であったことを鑑みると、当館が本史料を所蔵することは非常に高い意義があると考えられます。

筆者：群馬県立富岡実業高等学校 森田真一



平井城址



## 資料紹介 落合家近世文書

ここでは当館所蔵、落合家伝来の近世文書の概要について触れたいと思います。

落合家は江戸時代松代藩に出仕し、宝暦年間には年に御切米金5両と玄米5人扶持を与えられていたことがわかっています<sup>1</sup>。落合家の人物のうち、17世紀から18世紀にかけて蔵奉行などを務めた瀬左衛門重郷は、宝永年間(1704～1711)に著された松代藩領内の地理・伝説等を収録した地誌『つちくれ鑑』の編著者としても知られています<sup>2</sup>。

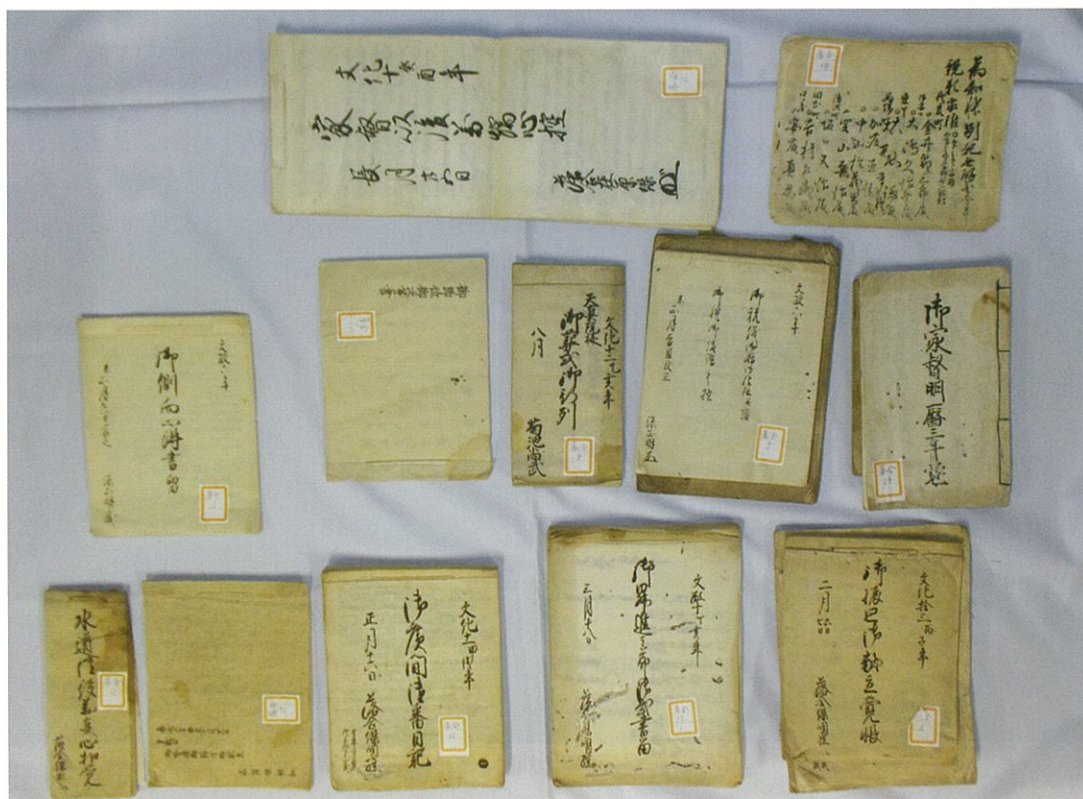
当館所蔵の落合家資料のうち、平成12年(2000)に当館蔵となった19点の資料群の多くは瀬左衛門保明が作成したものと推定することができます。瀬左衛門保明は文化10年(1813)に父量蔵から家督を譲り受け、御蔵奉行や若殿様(真田幸貫)御近習、御側御納戸などを歴任し、文久2年(1862)に亡くなっています。文書群に記された表題や年月日などから、多くは瀬左衛門が御側向と呼ばれる、藩主やその家族の近くで種々の職務にあたる「御守役」や「御近習」などといった役職群に配属されていた時に作成されたものであることがわかります。

写真2で載せたものが、その御側向の心

得を記した「御側向心得書留」という文書です。作成の経緯については巻末に、寛政2年(1790)に御側向から提出された心得書を文政6年(1823)に源正明が写したと記されています。この「源正明」という人物は、文政3年(1820)から御近習を務めていた大熊駒治正明が該当すると考えられます。この駒治は落合量蔵の五男で瀬左衛門の兄弟にあたり、大熊家の養子となった人物です<sup>3</sup>。駒治・瀬左衛門ともに、文政年間の同時期に御側向で働いていたことや、兄弟の縁もあり、この文書が落合家に伝来したものと考えられます。

この「御側向心得書留」には、御側向の役職が他の役職とやり取りする際の書類の宛名についての心得や考え方について、藩の上層部からの下問に対する返答が記されています。例えば、

かつては「御納戸衆中」や「御近習衆中」などと役職名に「衆中」と付けて書類が送られてきましたが、いつの頃からか「衆」の字をはぶいて「中」とだけ付けて送られてきています。「衆中」とは「様」や「殿」に相当するものなので、宛名に



(写真1) 当館所蔵落合家近世文書



は「衆中」と付けた方「中」とだけ書いて送られてくるよりも慇懃であるからよろしいと思います。

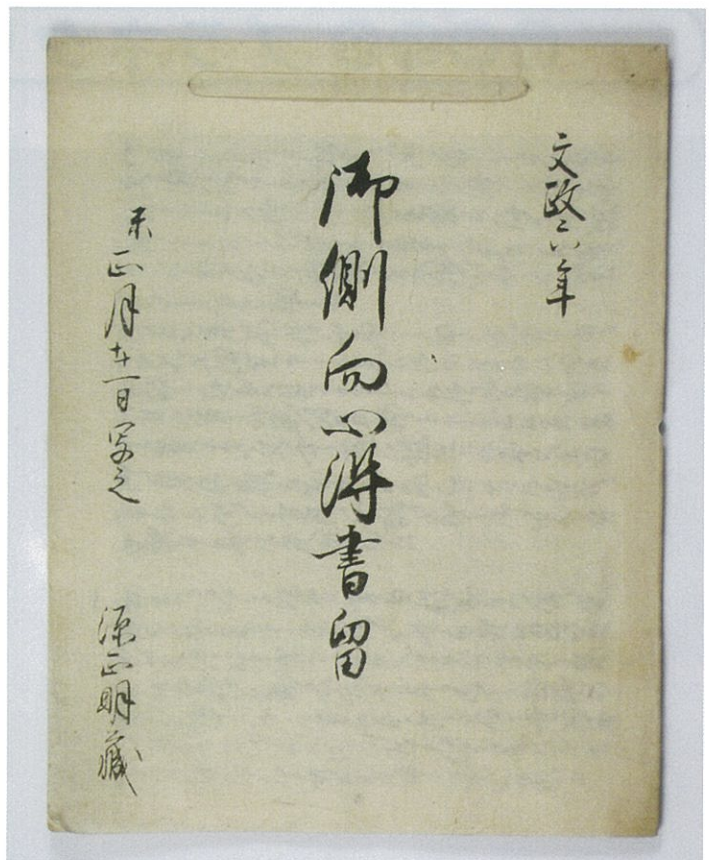
などとあります。業務上行き来する書類にも格式を大切にしようとしていた当時の社会のあり方がうかがわれます。

この他にも御側向をはじめ、水道役など松代藩士の仕事の内容がわかる文書が含まれており、大変意義深い文書群であるといえます。

筆者：長野市立博物館 専門員 宮澤崇士（みやざわたかし）

※本稿作成にあたり古文書同好会有志の方々（菅原智子さん、徳嵩みつ子さん、柳島慎一さん）にご協力いただきました。

- 1 当館蔵「宝暦二申年と寛政九巳年迄御家中御宛行増減帳」
- 2 長野市松代史跡文化財開発委員会『つちくれ鑑附海津近傍古城考』1994年
- 3 当館蔵浦野家文書「明細書 安永度ヨリ嘉永度迄」



(写真2)「御側向心得書留」

#### 落合家伝来近世文書（2000年受入分）

| 資料番号 | 資料名                | 年月日           | 作成    | 形態 |
|------|--------------------|---------------|-------|----|
| 1    | 家督以後万端心控           | 文化十癸酉年長月二十五日  | 落合在原保 | 冊  |
| 2    | 御家督二付御同席様御振廻之節万端心控 | 文政六癸未年十月二十一日  | 在原保明  | 冊  |
| 3    | 御振廻御献立覚帳           | 文化十三年丙子年二月六日  | 落合保明  | 冊  |
| 4    | 立歸出府二付万端心控         | 弘化二巳年二月二十四日   | 在原保明  | 冊  |
| 5    | 大殿様御書之写            | 申十一月十二日       | 落合保救  | 冊  |
| 6    | 御側向心得書留            | 文政六年癸未年正月二十一日 | 源正明   | 冊  |
| 7    | 御即位御次第書            |               | 落合保明  | 冊  |
| 8    | 天真様御葬式御行列          | 文化十二乙亥年八月     | 菊池尚武  | 冊  |
| 9    | 御祝儀御膳御給仕并諸御礼御後詰之控  | 文政六年未正月吉日     | 源正明   | 冊  |
| 10   | ■知帳別記余義無分事         |               |       | 冊  |
| 11   | 御領下村順              |               |       | 冊  |
| 12   | 領内検地条目             |               |       | 冊  |
| 13   | 水道御役万事心扣事          |               | 落合保救  | 冊  |
| 14   | 御家督明暦三年覚           | 宝暦八年戊寅四月      | 落合亀蔵  | 冊  |
| 15   | 幸教公御婚礼御飾付御献立       | 嘉永六年癸丑十二月二十一日 | 在原保明  | 冊  |
| 16   | 御広間御番日記            | 文化十一甲戌年正月十六日  | 在原保明  | 冊  |
| 17-1 | 御昇進之節御式書留          | 文政十丁亥年三月十八日   | 在原保明  | 冊  |
| 17-2 | 〔書状〕（逼塞の訳）         | 四月二十五日        |       | 状  |



## 資料紹介 プラネタリウム投影機



図 1：後町小学校に設置されていたプラネタリウム投影機。



## 資料概要

今回紹介するのは、後町小学校で設置されていたプラネタリウム投影機です（図 1）。現在、博物館内にある理科教育センターは、昭和 55 年度まで後町小学校内にありました。当時の市内の小学生は、理科教育センターへ行き、この投影機で星の学習をしました。後町小学校が平成 24 年度末に閉校となった際、博物館へ移動しました。平成 26 年 1 月から博物館で展示するための準備をしています。この株式会社五藤光学研究所製 E-5 型エロス投影機は、学校教育で使われることを目的としてつくられたもので、全国の小学校に約 300 台、長野県内でも約 10 台設置されたようです。後町小学校には昭和 45 年に設置されました。

## 投影機のしくみ

この投影機 E-5 型は、比較的単純に作られているので、プラネタリウム投影機のしくみがわかりやすくなっています。ここでは、投影機の各部の役割とその動きについてご紹介します。

上部の球体が恒星を映し出す部分です（図 2）。球の表面に星の位置に合わせた穴が開いていて、中には電球が入っています。穴から漏れた電球の光をドームスクリーンに映し、星空を投影することができます。球体全体がまわることで、星の動きを再現します（図 3）。

投影機下部の円柱にあるのが惑星を投影する部分です（図 4）。惑星は恒星の動きと独立して動くので、その動きは惑星ごとに計算する必要があります。この投影機では惑星の動きの計算を歯車で行っています。ちなみに、博物館で普段使っているのは、ウラノスという投影機で、惑星の動きはコンピュータで計算しています。現在稼働している多くの投影機はこちらのタイプになります。

操作卓もシンプルです（図 5）。星の動き（日周運動・年周運動）と電球の点灯（恒星、昼

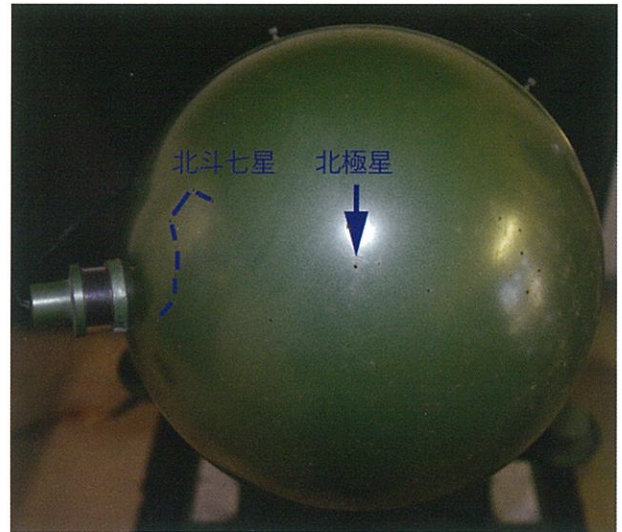


図 2：恒星を投影する部分。中央の穴が北極星。横に北斗七星も見える。

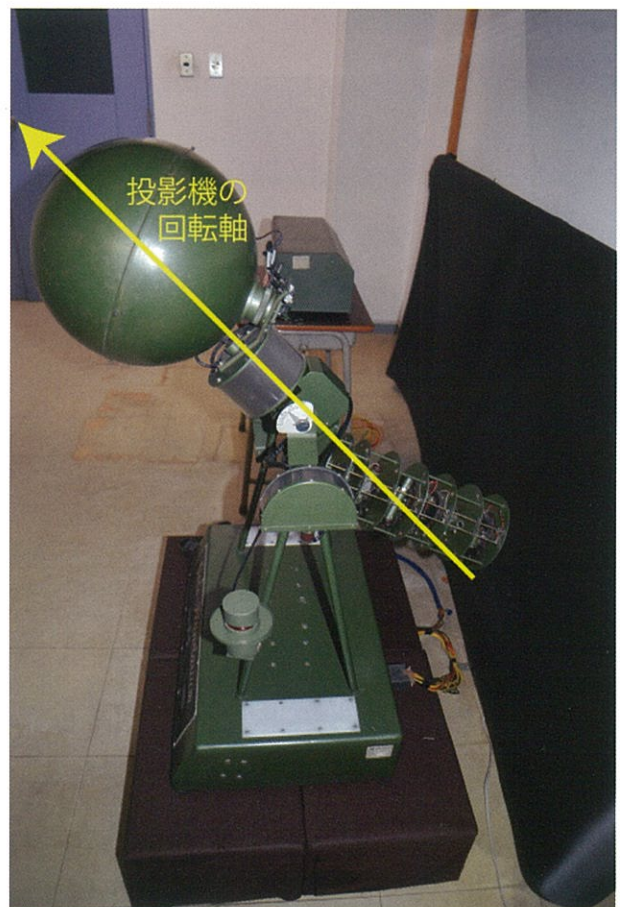


図 3：矢印を回転軸として投影機がまわる。



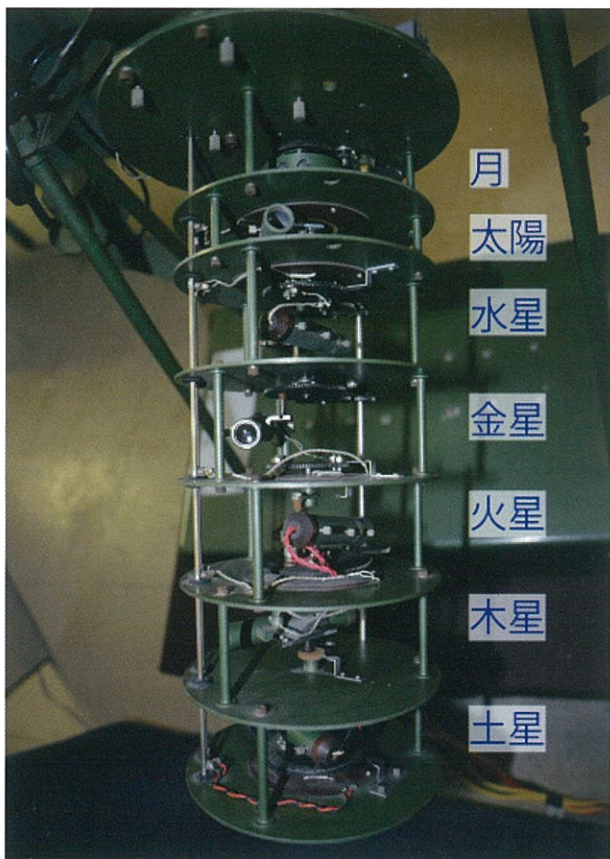


図4:月、太陽、水星、金星、火星、木星、土星の動きを再現する。



図5:操作卓もシンプルです。

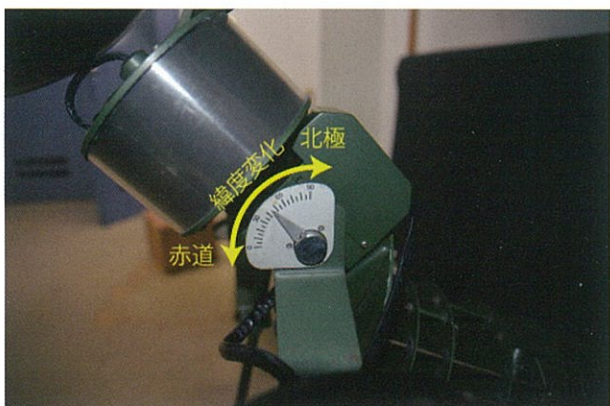


図6:緯度目盛。北極から赤道まで異なる緯度の星空を再現できる(北半球限定)。

光、朝やけ、夕やけなど)のスイッチがあるだけです。

星空の見え方は緯度によっても変わります。例えば、長野県長野市(北緯36.6度)と沖縄県那覇市(北緯26.2度)では見える星がずいぶん違います。この投影機では、図3にある投影機の回転軸の傾きを変えることによって緯度の違う地域の星空を再現できます(図6)。

## おわりに

今回は簡単にプラネタリウム投影機を紹介しました。現在、この投影機を展示する準備をしています。少しレトロな雰囲気を持つプラネタリウムに会いに博物館に遊びに来てください。

筆者:長野市立博物館 学芸員 陶山徹(すやまとおる)

## 博物館のHPアドレス

<http://www.city.nagano.nagano.jp/museum/>

### 長野市立博物館

〒381-2212 長野市小島田町1414  
TEL:026(284)9011

### 戸隠地質化石博物館

〒381-4104 長野市戸隠栃原3400  
TEL:026(252)2228

### 鬼無里ふるさと資料館

〒381-4301 長野市鬼無里1659  
TEL:026(256)3270

### 信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館

〒381-2404 長野市信州新町上条88-3  
TEL:026(262)3500

### ミュゼ蔵

〒381-2405 長野市信州新町37-1  
TEL:026(262)2500



▲長野市立博物館  
携帯サイト

